

第4回 市川市市民活動団体事業補助金審査会 次第

日時：平成28年8月26日（金）午前10時から

場所：市川市八幡1丁目1番1号

市川市役所 本庁舎3階 第4委員会室

次 第

1. 議 題

(1) 申請団体のヒアリング（4団体）及び補助可否の決定

- ①じゅんさい池健歩健走クラブ
- ②チームピースチャレンジャー
- ③国分川鯉のぼり実行委員会
- ④市川市 WHO 健康都市和洋会

(2) その他

市川市市民活動団体事業補助金審査会会議録

1. 日 時：平成 28 年 8 月 26 日（金） 10 時 00 分～12 時 30 分
2. 場 所：市川市本庁舎 3 階 第 4 委員会室
3. 議 題：(1)申請団体のヒアリング（4 団体）及び補助可否の決定
①11 番 じゅんさい池健歩健走クラブ
②50 番 チームピースチャレンジャー
③57 番 国分川鯉のぼり実行委員会
④87 番 市川市 WHO 健康都市和洋会
(2)その他
4. 出席委員：金丸会長、小笠原副会長、吉田委員、城委員、大西委員、岩間委員、荒井委員
(7 名)
5. 事務局：鈴木課長、佐久間主幹、矢萩主任（3 名）
6. 内 容

金丸会長：ただ今から、第 4 回市川市市民活動団体事業補助金審査会を開会します。
それでは、本日の会議を始めるに当たって、事務局から報告事項等がありましたらお願いいたします。

事務局：本日は 3 名の委員が欠席されていますが、委員 10 名の方の半数以上が出席でございます。

市川市市民活動団体事業補助金交付条例施行規則第 15 条第 5 項に定める会議開催の要件を満たしておりますので本会議は成立いたします。

なお、本日の議題の中には、非公開情報が含まれておりませんので、公開会議であることをご了承ください。

本日は補助申請を行った 87 団体のうち 4 団体、11 番「じゅんさい池健歩健走クラブ」、50 番「チームピースチャレンジャー」、57 番「国分川鯉のぼり実行委員会」、87 番「市川市 WHO 健康都市和洋会」についてヒアリングを実施し、その後、補助可否の決定をお願いいたします。

団体にはあらかじめ質問の内容を伝えてあります。

ヒアリングに先立ち、事務局から食糧費と食材料の考え方について説明させていただきます。

事務局では、弁当やジュースやお茶のような製品になっている飲食物は食料費に該当するものとして補助対象費用として認めていません。

一方、イベントなどで参加者に提供や販売するための調理用の食材については、事業の目的に合致している場合に限り、補助対象費用として認めると団体に説明しています。

なお、この補助制度では事業収入と補助額の合計が総事業費を上回った場合は、上回った分について、補助金の返金をお願いするため、団体が利益を得ることにはなりません。

説明は以上になります。

金丸会長：11 番「じゅんさい池健歩健走クラブ」についてヒアリングを行います。
質問の 1 点目、事業の目的に照らして、これまでの事業でどれくらいの効果や実績がありましたか。について説明をお願いします。

じゅんさい池健歩健走クラブ：私達の事業の目的は地域の融和と健康増進を目的としております。その目的を達成するために事業を 2 つ行っております。一つは「ゆっくり歩く走るスイカ大会」です。もう一つは文化活動として、梅林の入り口で写真展を開催しております。いずれも会場はじゅんさい池です。

第1点について申し上げます。「ゆっくり歩く走るスイカ大会」は今回で第12回になります。第1回17人、第2回9人、第3回21人と私ども走る仲間達だけで行っておりました。

第4回目からスイカを出そうではないかということで始まりました。

第4回の時に市川市の1%支援制度が始まり応募したらどうかという話になり、第4回からはボランティアを含め89人の参加がありました。

その後の実績は、第5回以降の平均を出してみると1回あたり大人85人、子供が26人、計111人の活動となりました。(今年度の活動内容を写真で配布)

今年度は参加者の年齢は0歳から83歳まで、赤ちゃんを胸に抱いて参加した方や小さいお子さんも参加しており、非常に家庭的な手作りの大会です。

走り終わるとスイカを片手に歓談している方もあり、参加者の皆さんも爽快感を感じていると思います。このような大会は数少ないと思います。

また、早朝からボランティア30人が会場の設営にあたっています。私達の団体は平成21年に市川市から健康都市市民賞を頂いており、第7回、第8回には大久保市長も参加していただきました。

このように健康増進と地域の融和に充分貢献していると私達は考えています。

金丸会長 : 次の質問に移ります。スイカで人を集めることが事業の目的ですか。について説明をお願いします。

じゅんさい池健歩健走クラブ : さきほど数字を申し上げたとおり、スイカは人集めに大変効果があります。スイカがなければ親子の参加は少ないです。事業の中心は健康大会です。

真夏の日中に事業を行っており、たくさん汗をかき爽快感を達成できる大会です。ただし、子供達には過酷なので、何回目からか大会から子供達は30分で走るのを止めスイカ割を開始しました。子供達はスイカ割を喜んでいます。

大人にもスイカを準備し、食べながら走っている人もいます。また、スイカは熱中症予防に大変効果があります。それでも危険なのでボランティアで医者と看護婦が参加しています。市川市からAEDを借り方が一に備えています。コースにはシャワーも1台準備しています。

金丸会長 : 次の質問に移ります。事業の目的はスイカ割と健保大会のどちらでしょうか。について説明をお願いします。

じゅんさい池健歩健走クラブ : 歩いて走ることがメインで、スイカはサブメインです。

金丸会長 : 次の質問に移ります。富里の大会は企業が協賛していますが、団体としてどのような資金集めの努力をしていますか。について説明をお願いします。

じゅんさい池健歩健走クラブ : 富里の大会は1万人規模の大会と比較することはできませんが、私達の大会は参加費として大人500円、子供は無料、ボランティアで参加した人も500円集めています。

ボランティアは通常無料の場合が多いと思いますが、終了後にスイカを食べて懇親しているので参加費をもらっています。

その他に文化活動として写真展を行っています。写真展は若干の余剰金があり、大会に繰り入れています。

大会の収支が赤字の場合は役員の寄附によりまかっています。

金丸会長 : ありがとうございます。委員の皆さんは今の説明を踏まえて、何か意見があればお話しください。

岩間委員 : スイカ割り大会に何度か参加したことがあります、参加者の多くが沢山のスイカを食べる訳ではないと思います。スイカが余った場合はどうしていますか。

じゅんさい池健歩健走クラブ : 過去に雨が降ったときがあり、参加者が少なくスイカが余ったことがありました。その場合はみんなでお金を出して買い取りました。
いつもは余らないように努力しています。子供たちの中で沢山走った子にあげたこともありました。

大西委員 : 健歩大会と写真展がありますが、参加者は同じになりますか。それともまったく別の方になりますか。

じゅんさい池健歩健走クラブ : 別になります。写真展はじゅんさい池や堀の内公園などの写真を対象としています。以前は犬の写真展を行っていましたが、同じ写真が多くなるため近隣の公園の写真を対象としています。
さきほど説明した健歩大会参加者111人は、写真展の参加者を含めていません。

吉田委員 : 前回の審査会の時に、活動は非常に素晴らしいとの意見でしたが、論点はスイカを市の税金で買って良いかどうかでした。質問ですが、解決したい地域課題の中で「子供はスイカ割を知らない」とあります。これでは、うがった言い方をすると高齢の方はポケモンGOを知らないということと同質のものかなと感じますが、そこについて深い課題意識をお持ちなのかと感じますので、そのあたりを説明していただけると、スイカを補助すべきかどうかの判断がしやすいと思います。

じゅんさい池健歩健走クラブ : ポケモンGOで参加者が増えるなら考えなければいけません、質問の主旨はわかります。今までは1%支援制度に協賛して、税金の使いみちとしてスイカを買っていました。このような温かい使い方があることを大会のたびに参加者に話しています。

今回の新しい補助制度では、そこまで話してはいません。スイカがなければ子ども達の参加もなくなり廃れていくと思います。

写真のような大勢の参加者が、手近で面白く、ありがたく、より運動になる、ためになる大会はないと思います。

例えば、去年より周回数が1周少なく泣いていたお子さんに、ボランティアが1周一緒に走ってあげたところ、お子さん、ご両親とも感激していました。

このような温かい大会なので、スイカがあるか無いかではなく、こういう大会には税金を使ってスイカを出して欲しいと思います。

荒井委員 : 大会が終わったあとにどのような交流が育まれているのかについて教えていただけますか。

じゅんさい池健歩健走クラブ : 今回は、写真班の人数が少なく良い写真が取れませんでした。過去の大会の写真であればお見せできます。

荒井委員 : 写真はなくてもどのような交流が育まれていたかを教えてください。

じゅんさい池健歩健走クラブ : 走っている人たちの会話で、走るグループに入りたいといった声もありました。ジョギング関係の情報を知りたがっていた人もいた様子で交流が進んでいたみたいです。

荒井委員 : 会費の充当について、赤字になった時に皆さんで行うということでしたが、普段の皆さんの活動は、大会以外にありますか。

じゅんさい池健歩健走クラブ：私達の団体はこの大会の活動だけです。他の活動はしていません。

城委員：参加者は市川市民ということでよろしいでしょうか。

じゅんさい池健歩健走クラブ：だいたい15%が松戸市、船橋市、江戸川区の住民になります。約80%が市民になります。これはインターネットで申し込んだ方のデータになります。この他に当日申込みもあります。

吉田委員：この補助金は4回目以降に上限額が減額になりますが、是非続けていただきたいという観点から、補助額が縮小していた場合の対策は何か考えていますか。

じゅんさい池健歩健走クラブ：参加者は最高120人となっていますが、近隣からの苦情もあり人数を増やすことができません。スイカ分だけでいうと、1万5千円の補助をもらう予定ですが、それが7,500円になったとしてもなんとかカバーできると思います。

小笠原委員：1%支援制度から変わったものとして食糧費があります。活動は素晴らしく今後も続けていただきたいと思いますが、他の団体には食料費は補助対象経費に含めないように伝えていきます。

スイカ割り用のスイカは必要なものであろうと思いますがみんなで食べる分はどうなんでしょうか。

じゅんさい池健歩健走クラブ：20個スイカを用意していますが、スイカの値段は1個2600円で、合計5万2千円になります。スイカ割り用のものは等級を下げて安いものにしていきます。地域の融和ということから一人でも多くの方に参加してほしいと思います。私達は原材料費と考えているので、補助対象経費に含めて申請しています。

金丸会長：ありがとうございました。書類だけでわかりにくい点も、今回お話を聞いてよくわかりました。

最後に団体としてPRがあればお願いします。

じゅんさい池健歩健走クラブ：子供に夢を与える仕組みを作りたいと考えています。この大会に参加した子供たちの中からオリンピックに出場するような子が出れば良いなと思います。

金丸会長：ヒアリングは以上で終了します。

団体の方は席にお戻り下さい。

補助金決定は多数決による決定になりますが、焦点はスイカの扱いになります。

スイカを全部認めるか、スイカ割りの分だけ認めるかになりますが皆さんいかがでしょうか。一部補助か全額補助かになります。

吉田委員：申請書に書き込みがなかったのですが、交流とか地域の融和という点が重視されているので、スイカ割が必要ということも理解できます。みんなで食べる分も過剰なものとは感じられませんでした。全部認めても良いと思います。

金丸会長：事業の目的に沿っているので、申請どおりで良いと思います。

小笠原委員：他の団体は食糧費を除いているので不公平ではないかと考えます。

食べる分は食糧費ではないかと思えます。

金丸会長：事務局からの説明では、弁当などの製品になっているものが食糧費に該当するとありました。スイカが製品に該当すると考えるのはどうかと思えます。

大西委員 : 目的に合致しているので、認めても良いのではないかと思います。

吉田委員 : 他の団体との公平性は重要と思いますが、目的と照らし合わせて判断するのではないかと感じています。基本的にスイカ割りに使うスイカは認めることで合意がとれていると思います。

スイカを食べるために買っているというよりも、スイカ割りの参加人数を考えながら余裕を持ってスイカを準備していると考えても、この補助金の主旨とも離れていないと思います。

金丸会長 : それでは決をとります。申請どおりに全額補助しても良いと考える方は挙手をお願いします。

(賛成者多数)

過半数を超えましたので、交付決定とします。

続いて、50番チームピースチャレンジャーのヒアリングを行います。

一点目の質問は、申請事業は市川市民にどのような効果がありますか。になります。

チームピースチャレンジャー : (パンフレットにより説明)

国際NGOとしてインドを中心に活動しており、他にネパール、バングラデシュで活動しています。活動の内容は現地の子供達に給食を出すこと、現地の貧困で苦しむ女性たちに職業訓練所を開設しています。

国内での活動として、イベントでインドの製品をフェアトレードしています。そこで講演会を開いたり、現地の支援のための活動をしています。

私達が市川で8年間やってきたことは、市民にアジアの実態、インドが親日であることなどを伝えたいということで、細かな報告会を開催していました。

他に、現地に行く方を市川で募り一緒にボランティア活動をしてきました。

現地に行けば日本では考えられないほど女性が搾取されていることがわかります。そういった女性たちは字を読むことも書くこともできず経済的に自立していません。

そこで女性の自立のために洋裁と編み物を教える職業訓練所を約5年前から運営しています。市川からも洋裁が出来る方を派遣して現地の人に教える活動をしています。

インドでは日本で考えられないほど素晴らしい布があり、それを利用して洋裁や編み物を手がけていきます。それらを日本に持ってきて販売します。寄附による国際支援ではなく、買い物による国際支援になります。

このような活動について交流会を通して、市民の皆さんに知っていただいています。

販売によって得たお金は現地の子供の給食費用に充てさせていただいています。

金丸会長 : ありがとうございます。次に市川市民の意識が変わる具体的な活動について説明をお願いします。

チームピースチャレンジャー : 買い物に来て現地の女性の自立が何故必要なのかについて気づいていただくことが出来ます。

インドのカースト制などの身分制度を真剣に勉強された方が編み物の先生として参加されるようになりました。

また、買い物だけでなく現地の子供のためにピアノとかハーモニカを集める活動を市民の中でされて、物資として運んでくださる方もいます。

あとは、ボランティアをしたいということで、現地で活動されている方もいます。

講演会や交流会をさせていただく中で、自分たちの知り合いに声をかけてくださったたり、横の広がりが出てきています。市民の方々が現地の実態を知って、心ばかりの寄附に繋がるだけでなく、活動に参加する人が出てきたことが私達の喜びです。

市川市民の方の声かけによって、千葉の高校などで講師として参加するようになります。

した。

荒井委員：知ることで家族、仕事に活かせるとありますが、どのように活かしていますか。

ピースチャレンジャー：全部ではありませんが、職場で活動の話をした方が職場内で不用品を集めて物資として集める活動をする人がいます。

インドの農村の子は学校に行くことが出来ないので、子供を学校に通わせることを条件に農村で栽培しているコーヒーを買ってフェアトレード製品として広める活動をしています。そのコーヒーを社内経費で購入して下さる方もいます。

家庭においては、写真展に出品した写真を写メで撮影し、家族で話し合っているということも聞いています。話を聞いた子供たちが現地に手紙を書き交流が始まったということもありました。

小笠原委員：事業は市内のギャラリーで行っていますが、費用がかかっているのですか。

ピースチャレンジャー：ギャラリーは会場をお借りして行っています。収支計画書の「空き箱」「平野青果店」などが場所の名前になります。

小笠原委員：市川と他の支部との関わりはどうなっていますか。

ピースチャレンジャー：市川の本部と同じような活動をしています。

岩間委員：補助金を利用するという事は市川市民にどれだけの効果があるかということが一番の争点になるかと思いますが、ギャラリーでは何人位の市民にアピールが出来たのかということと、高齢者の方々に生きがいの場を提供すると前回の回答でありましたが、具体的にどのように活動を伝えて行くのかについて説明をお願いします。

ピースチャレンジャー：1回ギャラリーを借りると140～50人の方がいらっしゃいます。続けていると家族を連れてきたり、友達を連れてきたりとかかなりの人たちと出会う機会になっています。

その中で、お買い物に来ている高齢者の方は縫い物が出来る方が多く、自分で手作りしたものを見本として提供していただきます。見本が現地の職業訓練所で製品になることがたくさんあります。

現地ではインド製の布やボタンや糸を使いますが、日本人向けに販売するためサンプルや型紙は全て日本で作っています。製品として日本に運ばれたもののメンテナンスも高齢の方が行っています。

高齢者の方が楽しく参加できることは福祉に繋がっていると感じています。

岩間委員：ギャラリーに来る人の市民の割合はどのくらいですか。

ピースチャレンジャー：80%位だと思います。

岩間委員：交通費6人とはどのような方ですか

ピースチャレンジャー：各支部の支部長、理事で、事業に参加するための費用です。

金丸会長：ありがとうございました。最後に団体からPRはありますか。

ピースチャレンジャー：ギャラリーのお知らせが目にと留まったら、お立ち寄り頂ければと思います。

金丸会長 : ヒアリングは以上で終了します。

団体の方は席にお戻りください。

それでは、決をとりたいと思います。経費についての修正はありませんので、申請どおり補助して良いと思われる方の挙手をお願いします。

(賛成多数)

過半数を超えましたので、交付決定とします。

続いて、57番国分川鯉のぼり実行委員会のヒアリングを行います。

一点目の、川の浄化に対して具体的にどのような活動をしていますか。について説明をお願いします。

国分川鯉のぼり実行委員会 : (平成28年度のプログラム、写真を回覧) 水をきれいにする方法は大きく2つの方法があります。一つは川の水を汚さないことです。私達は川を汚す最大の原因は地域に住む住民が汚れた生活排水を川に直接流していることと思っています。

川の汚れの80%から90%は生活雑排水です。私達の住む場所は下水道設備が完全に設置されていないので、汚れた水が川に流れ込むことが多いと思っています。

2つ目は汚れた水をきれいにする方法がありますが、これは莫大な費用や巨大な設備が必要です。

そこで私達の行った活動は、自治会やサロン、小学校などで集会や説明会などを開き、食器を洗うときに洗剤を使用しないで、アクリルたわしの使用や、油分の紙でのふき取りなど、汚れた水を直接川に流さないことをPRしています。

その他の活動として、定期的に河川のゴミ拾いをしたり、草刈り、自然観察会などを実施しています。

過去から川がどのくらいきれいになったかについては、国分川は全国ワースト1の川でした。

今では魚が住める川になりました。フェスティバルの時に鯉の産卵も見られます。フェスティバルの時に是非見ていただければと思います。

金丸会長 : 続いて、模擬店の売り上げがあるのに補助金は必要でしょうか。について説明をお願いします。

国分川鯉のぼり実行委員会 : 申請書の様式4号についてご説明します。収入については、事業収入は模擬店の売り上げです。寄附金収入は近隣企業や商店、個人からです。補助金収入は市からの補助金になります。会費が足りないので会費の充当は見込んでいません。合計で130万円になります。

支出については、報償費、交通費、消耗品費、印刷製本費、通信運搬費、保険料とありますが、今回は補助対象経費にしていませんが4月から開催日まで、パネルの準備をしたり鯉のぼりをあげたりする準備に延べ500人位が動いています。

資材の搬送物のトラック、重機なども近隣の協力を得て使わせてもらっています。

トラックの保険料は事務局から認められないとの説明でした。

使用料は会場用のトイレ、テーブルなどのレンタル費用です。

原材料費については、ボランティア・NPO課と協議して認められたものとして51万8千円を計上しています。

内訳は、会場に来ていただいた方先着2000人にお餅を配っています。

他にも1万人近い来場者があるイベントなので、模擬店を出して食事と飲み物の提供が必要になります。模擬店として焼き鳥と焼きソバの販売を行っており、その材料費です。また、食材が痛まないための氷代、調理用のプロパン代になります。

ここで訴えたいことは、原材料費51万に対して売り上げが50万円となっているように原材料費を回収できる売上げが無いのが実情です。

その他協力者謝礼は、人を集めるために演芸などを行っており、その出演者に支払う

費用などです。

最後の食糧飲料費については、作業をしてくれた方への弁当等の費用になります。
なかなか予算に余裕がなく、会費からの充当ができない状態です。

金丸会長 : 続いて、回数を重ねていますが、事業の当初の目的とずれているのではありませんか。
について説明をお願いします。

国分川鯉のぼり実行委員会: ずれている訳ではなく、むしろ主題が増えたということだと思います。
「甦れ清流」は当初から掲げているものです。その後、回を重ねるごとに地域の活性化
であるとか自然保護などテーマが増えました。「甦れ清流」は変わらずもっと大きなテー
マで活動していることをご理解いただきたいと思います。

金丸会長 : 最後に、フェスティバルで模擬店を行う意味と川の浄化の関係をどう考えていますか。
について説明をお願いします。

国分川鯉のぼり実行委員会: 国分川鯉のぼりフェスティバルは今年で26年になります。最初はさ
さやかな大人の夢が、今では市川北部を代表するイベントに成長したことは、私たち実
行委員の誇りでもあります。

最初は、「甦れ清流」をスローガンとした国分川の浄化、人間と自然の調和を図る環境
整備や保全、子供の健全育成など、今では当たり前にも思われることが、必ずしもイベン
トの出発点ではありませんでした。

回を重ねるうちに、地域の皆さんの賛同と協力を得て、鯉のぼりフェスティバルのコン
セプトが自然に形作られるようになりました。

今では県内だけでなく県外からも大勢の見物人が訪れる、一大イベントであり、60
名以上の実行委員、協力者150名以上、20以上の模擬店の皆様で構成され、それぞ
れに熱意と情熱をもって、夢と希望と感動を与えられる、そのような心の宝物を大切に
して育ててきました。

どのような素晴らしいイベントでも、5000人以上の来場者に対しては、地域の皆
様に心からの食事を提供する模擬店は必要不可欠であり、イベントの大事な要素でもあ
ります。

模擬店は食べ物だけでなく、その他の模擬店でも、昔の子どもの遊びやおもちゃ広場、
色々な啓発チラシの配布など、参加された皆様に優しい触れ合いの機会を提供すること
だと思っております。

国分川鯉のぼりフェスティバルに出店する模擬店の皆様は、地域のボランティアや学
校施設開放委員会の皆様であり、利益を追求する団体ではなく、子供たちの目線に立っ
た価格設定をしております。

鯉のぼりフェスティバルの模擬店は、市川北部を代表する安心して参加できるイベン
トのもう一つの花でもあります。

吉田委員 : 申請のメインは「川の浄化」になりますか、それともお祭りを開催することですか。

国分川鯉のぼり実行委員会: 基本的にメインは「川の浄化」になります。そのためには地域の方々
の協力が必要になります。国分川は春木川と併せて一番汚い川と言われていました。そ
れを何とかしようということで、地域の方や団体の方が努力しています。

フェスティバルもまずは、国分川をきれいにするのが目的で、色々な目的が合わさ
り膨れ上がったという状況です。

吉田委員 : 川の浄化が目的ということで、鯉が泳ぐようになったとの話がありましたが、鯉はあ
まりきれいな川でなくても住めると聞いたことがあります。元々の清流と呼ばれていた
ときにどのような生物がいたのかと、元の清流に何年位かけてどのようなステップでい

こうとしているのかについてお答えをお願いします。

国分川鯉のぼり実行委員会：河原を歩いてみると色々な鳥が見られるようになりました。鴨やカワセミも来るようになりました。この状態を維持するのではなく今後もっときれいにしていきたいと思います。

小笠原委員：スタートから26年でどのくらい川がきれいになったかについての説明と支出項目について、「川の浄化」に関する支出はパンフレット代の2万3千円が一番大きいように思いますが、川の浄化が中心なら、支出も半分くらいは川の浄化に使った方が良いではありませんか。

国分川鯉のぼり実行委員会：清掃活動については、ボランティアを中心に行っているので、費用はかかっていません。集会や自治会で市民に理解を求めるためにPRを行っていますが費用はほとんどかかっていません。

川がきれいになったかについては、当初は悪臭がするドブ川でした。それが今では鳥が来る様なきれいな川になってきました。

荒井委員：フェスティバルで川の浄化に関するPRはしていますか。

国分川鯉のぼり実行委員会：プログラムの挨拶の中に書いてあります。他に横断幕、チラシ、会場内の挨拶の中でPRをしています。

また、行政から水と緑の部がブースを出して川の浄化について啓発を行っています。公園緑地課、環境整備課など行政にも協力していただいております、ごみも残さないように注意して運営しています。

是非、来年は審査委員の皆さんにもご覧いただければと思います。

大西委員：無料で配布されるお餅については、配布により来場者を増やす効果を期待していますか。

国分川鯉のぼり実行委員会：そのとおりです。

城委員：大勢の市民や行政を巻き込んだ市川市の一大イベントです。認めないわけにはいかない事業です。今後は疑義が生じない費目で申請していただけたらスムーズかなと思います。

岩間委員：4年後に補助金の上限が減りますが、資金の確保について何か考えていることがあれば教えてください。

国分川鯉のぼり実行委員会：若干の規模縮小や「道の駅」が開設されるので、常設のポールを立ててもらいなど費用の削減を図っていきます。今は現場で毎回鯉のぼり用のポールを立てているので、省力化を図れればと思います。

ただ、サービスや質の低下は避けたいと考えています。

吉田委員：単なる人集めのための模擬店に補助金を出してよいのかという思いがあります。フェスティバルに「川の浄化」という要素があまり感じられません。プログラムにも「川の浄化」を意識しているようには感じられませんでした。餅の配布にしても川の清掃や観察に参加した人に配るなど工夫の余地があるのではないかと思います。

さきほどカワセミの話もありましたが、生き物調査を専門家の方をお願いして、科学的にできる部分と思いますが、こういった議論は会の中でされていますか。

国分川鯉のぼり実行委員会：国分川に何百というミニ鯉のぼりを掲揚して、参加者の皆さんに川を見ていただけるようになっていきます。そこで、皆さんが川の浄化を実感しています。

金丸委員：ありがとうございました。最後に団体のPRがあればお願いします。

国分川鯉のぼり実行委員会：我々は川の浄化も必要ですが、地域の活性化の中で自然だとか子供だとかもっと大きな取り組みで地域を盛り上げていくことが全ての解決に繋がるのかなと思います。

金丸会長：ありがとうございました。それでは、団体の皆さんは席にお戻りください。委員の方から採決について何か意見はありますか。

吉田委員：原材料費の考え方ですが、環境のイベントで環境に関する啓発をするための出店に要する原材料費と本来の主旨からは外れると思われる販売するための原材料費はいずれも認められるものですか。

事務局：事務局では鯉のぼり実行委員会の原材料費は、川の浄化という目的の他に、地域交流の目的もあるため、模擬店のための原材料費であっても、目的に沿った経費として補助対象経費になると考えています。

吉田委員：目的に沿った形で集客するストーリーが認められたということですね。

事務局：そのとおりです。

大西委員：目的に合致していたとしても50万円の売り上げを見込んでいるので、その分を除くという考え方はあると思いますが。

事務局：この補助制度は、補助額と事業収入の合算額が総事業費を超えている場合は、超えた分を返金していただくため、団体として利益になる仕組みではないので、問題はないと考えています。

金丸会長：それでは決を採りたいと思います。
申請どおり補助してよろしいと思う方は挙手をお願いします。
(賛成多数)
過半数を超えましたので、交付決定とします。

続いて、87番市川市WHO健康都市和洋会のヒアリングを行います。
一点目の質問は、事業の内容は団体の主旨、目的にあっていますか。になります。

市川市WHO健康都市和洋会：会の目的は、WHO憲章の精神を尊重した「健康都市いちかわ」宣言に基づき、健やかにかつ、いきいきと暮らせる「健康都市いちかわ」の実現を図るために、市川市WHO健康都市推進員として、体とこころの健康を中心にまちの健康・社会の健康・文化の健康を推進することを目的とする。この目的達成のために、健康の保持・増進に関する正しい知識の啓蒙に努め、市川市の事業普及啓発・市川市が実施する施策への協力等を市川市民と行政の架け橋として活動・実践していく。これが目的です。市川市民の多くの人に健康になってほしいと思っています。笑顔あふれる市川市を目指して活動しています。

市川市では平成16年に健康都市宣言をしています。17年度から和洋女子大学で健康都市に関する講座が行われており、保健推進員の副会長の立場にあったので参加しました。

その講座が終了したのち、80%以上出席して健康都市推進員になった方々を中心に、市の主導で作られたのが和洋会です。活動は、講座で教えていただいたことを地域に還元することを目的に現在まで活動を続けています。

活動していくには、色々なものに費用がかかるので、会として活動費用を捻出するための公園の清掃を引き受けました。そこで得たお金と1%支援制度でいただいた補助をもとに活動してきました。

団体の主旨、目的にあっているかという質問については、会則の中で目的を達成するために次に掲げる事業を行うと規定しているので、これに基づき、事業を行っています。

1%支援制度の時から盆踊りと七宝焼き体験を追加しました。

盆踊りは他団体との交流ということで、応援として会員が行っていました。参加した86歳の方の感想で浴衣を着ると腰が伸びるというものがありました。この効果は市民に広げていくべきだと考えて盆踊りを追加しました。

また、子育て支援もしているので、小さい子を連れた若いお母さん達との接触がありますが、若いお母さん達は、浴衣を着ることができない、盆踊りを踊れないということで、盆踊りに参加していないことを知りました。

お年よりも若い方も盆踊りに参加できるようにすることは意味があるのではないかと思います追加しました。

(パンフレットの回覧)

今までは、講演会と親子クッキングとバス研修でしたが、今年度は盆踊りと七宝焼きを追加しました。

金丸会長 : それでは、2点目の市民に対して活動を伝える努力をしていますか。についてお願いします。

市川市WHO健康都市和洋会 : 盆踊りのパンフレットを全公民館に置かせてもらい、会員と会員以外の市民併せて26名の参加がありました。

みんなで浴衣を着るところからはじめまして、そこに講師をお呼びしました。講師の方は、ご主人が病気をお持ちの方ですが、80歳から日本舞踊を始めて、師範をとられた方で、この方にお話ししてもらおうと聞いている方が元気になると感じています。

このような努力をしてきました。

金丸会長 : 3点目の、市民が健康になるといった効果が現れていますか。について説明をお願いします。

市川市WHO健康都市和洋会 : 講演会の後もアンケートをとっていますが、健康になる効果も現れています。和洋会の皆さんのきらきら輝く姿はどこから来るのですかと質問されることもあります。講演会の内容を理解して喜んで帰られる方もいて、次の活動の励みになります。

今日は説明がうまくできないので、たまたま和洋会の活動に何度か参加している方で、以前はお医者さんに通っていましたが、とても元気になった方がいます。

この元気を是非見てください。

会員の話 : 長年営んでいたお店を子供にゆずり、調子が悪くなり歩くこともおぼつかない状態で、何を希望に生きていけば良いのかと思っていましたが、和洋会に声をかけていただいて、活動に参加すると、皆さんのお役に立っているし、みんなと仲良くできることもうれしく、生きがいを感じています。

私を見て、入会した方もいます。

市川市WHO健康都市和洋会 : 新たに入会する方も多く、先日10周年のイベントには500の方に参加していただきました。市川市の支援のおかげと思っています。このような人が一

人でも二人でも増えて欲しいと思います。

荒井委員 : 七宝焼きを追加した理由を教えてください。

市川市WHO健康都市和洋会 : 市民の方に色々な催しをすると、その日のうちに完成して帰ることができるものが喜ばれます。簡単にできて、その日に作品を完成する達成感が健康に繋がると気づきました。文化の健康の推進にとっても重要な位置を占めています。

小笠原委員 : 七宝焼きなどはカルチャースクールでもやっていると思いますが、審査会は税金を投入して実施してよい事業かどうかを審査しています。
税金が投入されていることをバス研修などで参加者に伝えてありますか。

市川市WHO健康都市和洋会 : そうです。私達の会は儲けるのではなく、市民に全てを還元することを目的にしています。

市民の方には和洋会のイベントならお金がかからないということが浸透しているようです。自分の力で参加できる人は元気な人です。

でも会の名前を見て、無料だから参加して下さる方もいます。私達の活動に1回でも参加してもらえれば、健康になろうという気持ちになると信じています。

小笠原委員 : 補助金は問題を解決するために交付することになりますが、何をしたことによって問題が解決されると考えていますか。

市川市WHO健康都市和洋会 : 会則の目的の中に体とこころの健康を中心にまちの健康・社会の健康・文化の健康と書いてありますが、目的は健康都市を目指した街づくりです。

解決したい地域課題は何ですかとの問いには、活動してみても判ることですが、市民には色々な方がいます。例えば健康に自信を持つことが出来ない人、社会になじむことが苦手で不安を抱えている人、あるいは経済不安、ようするに若者の無職、加齢に伴う不安、年を取って頼る人がいない、地域に知り合いがいない人もいます。災害についても、自助の大切さを知らない人、食についてもバランスの良い食事を取ることが苦手な人がいます。

こういった課題を抱えた人たちに向けて、講座や講演を行ってきました。振り返ってみると街はだいぶ健康になってきたと感じています。

金丸会長 : ありがとうございます。最後に一言PRをお願いします。

市川市WHO健康都市和洋会 : 説明よりも実際に見ただければ判っていただけると思いますので、機会があれば是非、活動をご覧下さい。

金丸会長 : それでは、席にお戻りください。
申請どおり補助してよろしいと思う方は挙手をお願いします。
(賛成多数)

過半数を超えましたので、交付決定とします。

本日の議題は全て終了しました。

事務局から連絡事項などがありますか。

事務局 : 本日はありがとうございました。
次回の審査会は、来年5月に補助対象事業の実績報告の審査をお願いします。
以上でございます。

金丸会長 : これで、第4回市川市市民活動団体事業補助金審査会を終了します。